

2) 内部寄生虫に関する研究

堀井洋一郎・薄井萬平(宮崎大)
森 明雄

内部寄生虫卵の変化を定期的に調査した。

3) 類人猿の社会学的生態学的研究

森 明雄

報告・その他

- 1) 三戸サツエ(1980): ポスザルへの道,
pp. 166. ポプラ社, 東京。

サル類保健飼育管理施設

竹中 修(兼)
千葉敏郎・松林清明
後藤俊二・松林伸子¹⁾

前二年度の年報(vol. 8, 9)で報じたように昭和54年度概算要求において認められた繁殖コロニーが昭和55年6月に竣工した。これは総面積2,437㎡の繁殖母群放飼場と528㎡の育成舎よりなっており、前者を4区画に分けて総数約120頭のアカゲザル・ニホンザルを放飼し、年間約60頭の研究用子ザルの育成を目的としている。放飼場完成にともない繁殖母群の獲得に努めたが、成熟した健康なサルを多数同時に購入することは年を追って難しくなっており、とくにアカゲザルの母群構成は困難をきわめた。最終的には既存の第2放飼実験場で飼育していたインド産アカゲザル、グループゲージで分散飼育していた中国産アカゲザル、新たに購入出来た中国産アカゲザルおよび京都市嵐山の岩田山自然遊園から導入したニホンザルの計4群をもって母群とした。アカゲザルの繁殖母群は総数ではオトナオス7頭、オトナメス43頭、子ザル22頭で構成されたことになる。またニホンザルはオトナオス2頭、オトナメス11頭、子ザル10頭である。したがって当初の母群120頭、年間60頭の研究用子ザルの育成のレベルに達するにはここ数年母群の充足に努めねばならないと考えている。なお母群構成半年目の昭和56年初夏にはアカゲザル32頭(出生後事故死をした5頭を含む)およびニホンザル4頭の出

1) 教務職員

産をみている。なお近年放飼群を対象とした種々の共同利用研究、所内研究が増えているが繁殖コロニー完成により、既存の放飼実験場が本来の機能をも果し得る余裕が生じたのは喜ばしい事である。

繁殖コロニー新設にともない技官定員1名の増加と施設運営費の増加が認められた。これらについては全国の国立大学動物実験施設から強い要求が出されていることでもあるが、要求が実現され今後数年間の施設運営に見通しが得られた。関係当局の理解と援助に対し感謝の意を表したい。

人事においては、技官定員が1名増加したことにより、石松正衣が8月1日付で採用され育成舎担当となった。また研究所附属施設長候補者選挙内規が改正(全所員による推挙制度の導入および4期以上の重任の禁止が主たる点)され、新内規のもとに施設長候補者の選挙がおこなわれ、竹中 修(生化学部門)が昭和55年4月1日より2年間施設長を兼任することになった。

昭和55年度サル施設経費概算

項 目	金 額(千円)
備 品 費	1,857
サ ル 購 入 費	1,415
サ ル 飼 料 購 入 費	9,465
薬 品 代	1,304
消 耗 品 費	2,488
人 件 費	7,260
補修・改造等工事費	2,129
ゲ ー ジ 購 入 費	1,755
雑 費	292
計	27,965

繁殖コロニー初年度整備費

項 目	金 額(千円)
ゲ ー ジ 購 入 費	3,618
工 事 費	3,317
計	6,935

研究概要

- 1) ニホンザルの精子形成における季節的変動
千葉敏郎

前年度に引き続き、野外群ならびに室内群における精子形成の季節的変動を観察し、その成績をそれぞれ学会ならびに雑誌等に発表した。これを以ってこの研究は一応終了したい。

- 2) ニホンカモシカにおける精子形成
千葉敏郎

岐阜県下において捕獲されたニホンカモシカ(♂:約70頭)より精巣を採集し、精子形成開始の時期ならびに精子形成における季節変動をしらべた、その成績を学会ならびに雑誌等に報告した。

- 3) ニホンザル雄性生殖器官の年令的季節的变化に関する形態学的研究

松林清明

精巣及び副生殖腺の重量・組織像の変化を成長、年周期変動の両面から調べている。あわせて精液性状、血中性ホルモン濃度の検討も加え、オスニホンザル性機能の総合的評価を行っている。

- 4) インドネシア産カニクイザルの臨床微生物学的調査

松林清明

文部省海外学術調査費により、インドネシア国において三カ月にわたり捕獲調査を行い、細菌性赤痢・結核・各種内部寄生虫等の罹患状況を調査した。

- 5) 霊長類の眼底像に関する研究

後藤俊二

ニホンザルを主としたマカク類の生長に伴う眼内視所見の推移について、単色光撮影法等による眼底観察及び前眼部の変化についての継続観察を行っている。

- 6) ニホンザルの奇形に関する研究

後藤俊二

四肢奇形個体についての、血液検査を主とした臨床医学的観察を共同研究の一環として進めている。

論文

- 1) Tiba, T. (1981): Jahreszeitliche Schwankung der Spermatogenese des japanischen Makaken (*Macaca fuscata*) in der Gefangenschaft, insbesondere im Ver-

gleich mit freilebenden Gruppen.
Zschr. f. Säugetierk. (印刷中)

- 2) Tiba, T., Sugimura M., Suzuki Y., (1981): Kinetik der Spermatogenese bei der Wollhaargemse (*Capricornis crispus*) I Geschlechtsreife und jahreszeitliche Schwankung. Zool. Anz. (印刷中)

- 3) Tiba, T., Sugimura M., Suzuki Y., (1981): Kinetik der Spermatogenese bei der Wollhaargemse (*Caricornis crispus*) II Samenepithelzyklus und Samenepithelwelle. Zool. Anz. (印刷中)

学会発表

- 1) インドネシアのカニクイザルにおける赤痢・結核検査結果

松林清明

1981年3月第25回プリマーテス研究会

- 2) ニホンザルの精巣機能の年周期変動

榎本知郎・松林清明

清木勘治・春木康男

1981年6月日本解剖学会第62回関東地方会

昭和55年度(1980)サルの動態表

昭和55年度末(1980)
飼育頭数

種名	入 荷			出 産	実 験 殺	事 故 死	管 理 不 良 死	結 核 殺	死 因					種 名	頭 数	
	校 費	科 研 費	寄 附						消 化 器 系	呼 吸 器 系	泌 尿 生 殖 器 系	そ の 他	不 明			
コモンツパイ				12		8								1	コモンツパイ	9
ワオキツネザル				1											ワオキツネザル	3
オオガラゴ				2							1				オオガラゴ	5
ワタボウシタマリン									1						ワタボウシタマリン	11
ヨザル				1								2	1		ヨザル	6
リスザル										1					リスザル	3
ミドリザル	1														ミドリザル	1
ニホンザル		6	37	30	15	1	1		6	6	1	1	2		ニホンザル	1
アカゲザル	20		1	18	12		1(1)		3	3	1		7		アカゲザル	146
カニクイザル	25		1						2(1)	2					カニクイザル	27
タイワンザル				2	6		1					1			タイワンザル	18
アッサムザル			1		5										アッサムザル	6
ベニガオザル							1			1					ベニガオザル	6
ブタオザル					2		2								ブタオザル	4
ボンネットザル				2					1						ボンネットザル	11
マントヒヒ				1					1			1			マントヒヒ	1
ドグエラヒヒ			3		3										ドグエラヒヒ	2
Mff × Mm			11	3						1					Mff × Mm	13
Mi × MC					3										Mi × MC	3
小 計	46	6	54						14(1)	14	3	5	11		小 計	
合 計	106			72	46	9	7	1(1)	47(1)						合 計	597
															Ep × Ca	2
															マントヒヒ	1
															ゲラダヒヒ	2
															シロテテナガザル	2
															アジルテナガザル	1
															チンパンジー	7
															計	597

注) ()印, 検疫期間中のもの

注) 総増加数 - 総減少数 = 差引頭数

178 - 110 = 68 (S.54年度より68頭増加)